

# 津和野高校経済効果調査報告書

## 概要版



平成 21 年 8 月 津和野高校後援会

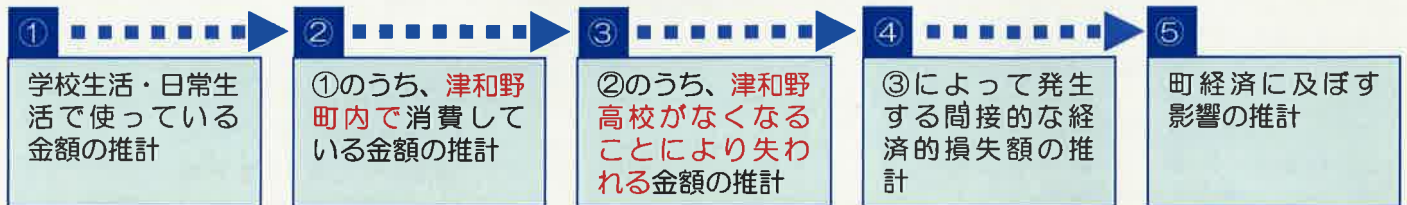
# 調査の目的

## 津和野高校がなくなる？

全国的に中学校や高等学校の統廃合が進む中、津和野高校も生徒数の減少などにより、統廃合の対象となる可能性があります。

今回の調査は、仮に津和野高校がなくなった場合、津和野町内でどれだけの経済的損失が発生するのかを確認するためのものです。

調査は、以下の手順により実施しました。



※生徒や教員のみなさんが消費している金額についてはアンケート調査でお聞きしました。

## 生徒・教員・高校が町内で消費している金額

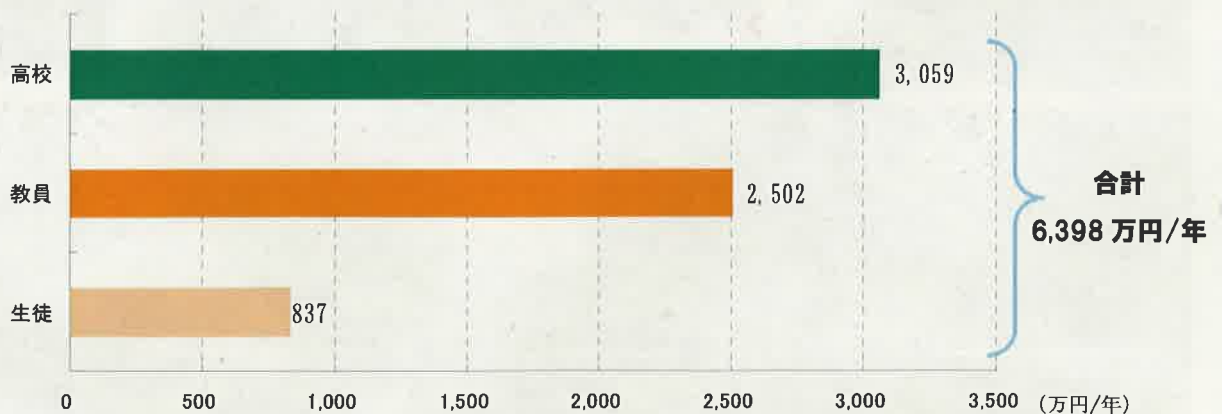
### 年間約 6,400 万円が町内で消費されています

アンケート調査等の結果から、年間に津和野町内で消費している金額は、生徒が約 837 万円、教員が約 2,502 万円、高校が約 3,059 万円となりました。

生徒・教員・高校により、年間約 6,400 万円が津和野町内で消費されていることとなります。



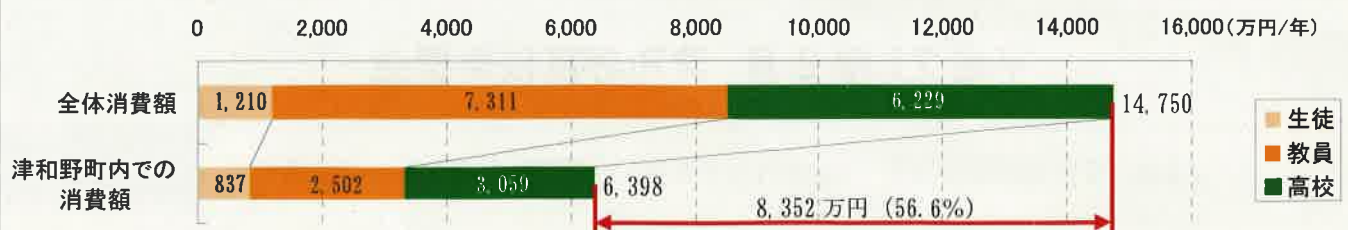
■生徒・教員・高校の津和野町内での年間消費額



※町内消費額は、例えば生徒の場合、月々に自由に使える金額（小遣い）を聞き、それらの用途（飲食、娯楽等）別消費割合、地域別消費（町内、益田市等）割合を乗じて推計しています。ちなみに、お小遣いの額として最も回答が多かったのは「2,000円以上3,000円未満」でした。

参考：全体消費額のうち、町内での消費は半分以下～販売のチャンス逃している！？～

町内外を問わず、生徒・教員・高校により消費されている額は年間約 14,750 万円となりました。そのうち 56.6%にあたる約 8,352 万円が町外で消費されており、町内消費は半分以下となっています。



# 津和野高校がなくなることによる経済的損失

## 津和野高校がなくなること、年間約 1 億 1,000 万円が失われます

### ●直接的な経済的損失額は約 5,600 万円です

先述のように、津和野高校の生徒・教員・高校の町内消費金額は、約 6,400 万円と推計されます。仮に津和野高校がなくなると、生徒の町内消費額は 837 万円から 155 万円、教員は 2,502 万円から 605 万円となることが推計されました。高校運営にかかる 3,059 万円はなくなるため、直接的な経済的損失額は約 5,600 万円と推計されます。



※減少額の推計にあたっては、例えば生徒の飲食の場合、町外から津和野高校に通っている生徒の町内での飲食額は全てなくなり、町内から通っている生徒は新しい高校周辺で消費することが予測されることから現状の半額になるという仮定の基に実施しています。

■津高がなくなった場合の消費額推移の推計結果(一部)

例えば、生徒の場合は飲食費が年間 193 万円から 115 万円に、教員の場合は食費が 947 万円から 762 万円となると推計されました。

	生徒		教員	
	飲食費	雑誌	光熱水費	食費
現状	193 万円/年	32 万円/年	288 万円/年	947 万円/年
▼				
津高がなくなると	115 万円/年	18 万円/年	184 万円/年	762 万円/年
差額	78 万円/年	14 万円/年	104 万円/年	185 万円/年



### ●さらに、間接的な経済的損失が約 5,700 万円となります

津和野高校がなくなることによる直接的な経済損失額は、約 5,600 万円でした。

これが、どれだけの間接的な経済的損失額を生んでいるかを推計したところ、1 次と 2 次の合計で年間約 5,700 万円となりました。

	損失額 (万円/年)
1 次損失額	3,969
2 次損失額	1,766
<b>間接的な損失額</b>	<b>5,735</b>

※間接的な経済的損失額の推計は、「直接的な経済的損失額＝津和野高校が存在する場合、町内で消費される金額」による一次と二次の経済波及効果を、「間接的な経済的損失額」とみなして行っています。経済波及効果の推計には、島根県が作成している「経済波及効果分析ツール」を活用しています。

### ●合計で約 1 億 1,000 万円の経済的損失となります。

津和野高校がなくなることで、直接的な損失額 5,638 万円、間接的な損失額 5,735 千円を合わせて、約 1 億 1,000 万円が失われると推計されました。



# 津和野高校がなくなることによる経済的損失が町経済に及ぼす影響

## 「1億1,000万円」は津和野町内の年間小売消費額の5.7%に相当します

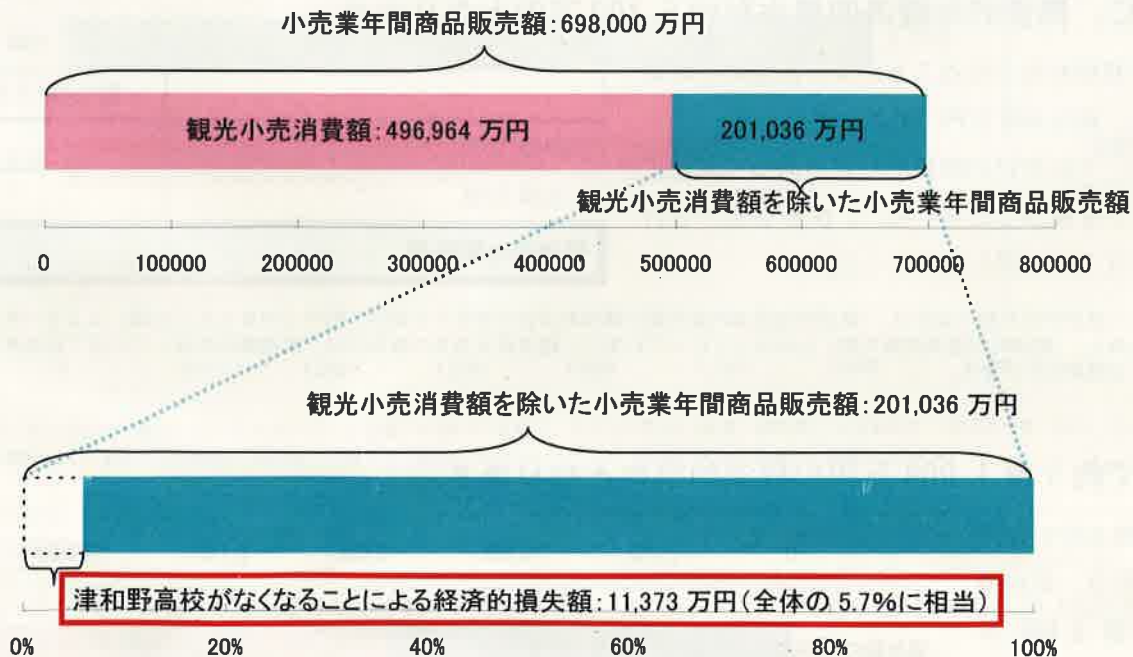
津和野高校がなくなることによって、津和野町経済にどの程度の影響があるかを検証するため、津和野町における小売業年間販売額（観光小売消費額を除く）に占める、経済的損失額の割合を推計してみました。

津和野町の小売業年間商品販売額（観光小売消費額を除く）は約20億円と推計されました。したがって、1億1,000万円の経済的損失が、津和野町小売業の年間商品販売額を5.7%押し下げることになります。

### ■失われる金額が津和野町経済に及ぼす影響の推計

項目	金額等	単位	出典
① 島根県全体の観光消費額	11,900,000	万円	島根県観光動態調査
② 島根県全体の宿泊客延べ数	3,136,224	人	島根県観光動態調査
③ 観光客一人あたりの宿泊額	0.5*	万円	中海・宍道湖・大山圏観光周遊行動調査結果
④=②×③ 島根県全体の宿泊額	1,568,112	万円	
⑤=①-④ 島根県全体の観光小売消費額	10,331,888	万円	
⑥ 島根県全体の観光入込み延べ数	26,584,000	人	島根県観光動態調査
⑦ 津和野町の観光入込み延べ数	1,277,644	人	島根県観光動態調査
⑧=⑦/⑥ 津和野の島根県全体に占める割合	4.81	%	
⑨=⑤×⑧ 津和野町の観光小売消費額	496,964	万円	
⑩ 津和野町の小売業年間商品販売額	698,000	万円	島根県統計書
⑪=⑩-⑨ 津和野町の観光小売消費額を除いた小売業年間商品販売額	201,036	万円	
⑫ 経済的損失額	11,373	万円	本調査結果
⑬=⑫/⑪ 失われる経済的損失額が⑪に占める割合	5.7	%	

※平成20年に松江高専、東京大学等の共同研究によって行われた「中海・宍道湖・大山圏観光周遊行動調査結果」では、一人あたりの宿泊に要する費用が4,000円～5,000円であるとの調査結果が得られている。これを基に、一人あたりの宿泊費を5,000円と仮定して推計している。



お問い合わせ

島根県立津和野高等学校後援会（担当：大内宗泰） FAX(0856)72-0321